

| | |
|------|--|
| 会議名称 | 県立中井やまゆり園改革アドバイザリー会議 |
| 開催日時 | 令和8年1月20日（火）13時30分から17時30分 |
| 開催場所 | 西庁舎7階703会議室 |
| 出席者 | 佐藤議長、渡部副議長、小西委員、隅田委員、野崎委員、上野委員、高原委員、中西委員、名倉委員、羽生委員 |
| 問合せ先 | 障害サービス課 支援改革グループ |
| 会議概要 | 以下のとおり |

【議題1 個別事例の検証】

- 利用者の生活を広く見渡して、必要な医療につなげることができていなかつたという点は、他の事例と共通している。
- 生活の対応ができていれば、もっと多くのことに気付けたのではないか。
- 昔は、リラックスを目的とした良い支援もあったようだが、それが定着していない。取組を継続させていくための努力が必要だった。
- 入所の中で病気になることもあり、その際に、医療の役割が問題になることは理解できるが、そもそも園において、利用者と関係性を作っていく姿勢が欠落していたことが根本的な問題ではないか。

【議題2 福祉的な検証の論点整理】

- 利用者がどう感じているのか、支援者側は気にすることが大切。支援者の行動が利用者にインプットされ、それが利用者のアウトプットとして返ってくる。
- 強度行動障害スコアで評価することがあるが、スコアは手段であり、目的にはならない。スコアが目的化することはありがちことで、デジタル化した評価を絶対化してはいけない。多次元的に見ていかないといけない。
- 支援とは、危ないことは止める、いのちを守ること。そこを蔑ろにすると、いのちを守れないし、うまく支援ができない。
- 支援は触れ合いが必要で、触れ合いがないと面白くない生活を押し付ける支援になる。
- 本人の健康やいのちを守ること、生活の豊かさを作り上げること、職員が利用者の力を観察しプロデュースすること、利用者と家族の関係を良好にすることのすべてが支援。中井やまゆり園の支援を振り返ると、職員にとっての安心安全を守る支援ということが一番なのではないか。当事者目線の支援を実現してほしい。
- 個別支援計画の件にも共通しているが、第三者的視点による監査がなければ、実効性のない空しい議論になってしまう。

【議題3 アクションプランの進捗状況】

- 中井やまゆり園が目指す方向のエピソードが指標になるため、アクションプランの評価にエピソードを入れてほしい。

- オール中井デーは、延べ人数に入っていない人をあぶり出す機能を持っていました、そのような機能を期待していました。誰一人置いてきぼりにしないことが大事で、それを評価する必要がある。
- アクションプランでは利用者一人ひとりの人生を支援するとなっているが、それが個別支援計画の意思確認に該当する。暮らしを作るという柱が個別支援計画を作成することにつながる。
- 個別支援計画の問題は、多様な要素が絡んでいると思う。県の組織で起こっていることの原因を考えないといけない。